

令和4年5月19日
北九州空港機能強化・利用促進特別委員会
(港湾空港局空港企画課)

目次 (報告/説明)

- 1 令和3年度 北九州空港の利用状況

- 2 本市と福岡県が連携した北九州空港の取組みの継続と、
「ネットワーク再構築推進期間」に関する令和4年度の取組み
予定事業及び実施予定
 - (1) 本市と福岡県が連携した北九州空港の取組みの継続
 - (2) 令和4年度の取組み(貨物、アクセス、機能強化、旅客)

- 3 令和4年度 旅客のV字回復に向けた取組み

令和3年度 北九州空港の利用状況

1 利用者数

令和3年度の利用者数の合計は、前年度比149.2%の481,505人となった。

	令和3年度 (人)		令和2年度 (人)
		前年度比	
利用者数合計	481,505	149.2%	322,783

	令和3年度 (人)		令和元年度 (人)
		令和元年度比	
利用者数合計	481,505	30.5%	1,579,108

(1) 定期便 (国内)

国内線全体の利用者数の合計は、480,717人で、前年度と比べ160,654人増加した。

	令和3年度 (人)				令和2年度 (人)		
	利用者数 (人)	前年度比	提供座席数 (席)	利用率	利用者数 (人)	提供座席数 (席)	利用率
東京 (羽田)	475,818	150.3%	899,526	52.9%	316,493	665,458	47.6%
沖縄 (那覇)	4,899	137.2%	18,600	26.3%	3,570	15,000	23.8%
合計	480,717	150.2%	918,126	52.4%	320,063	680,458	47.0%

(2) 定期便 (国際)

令和3年度国際線の就航実績はなし。

	令和3年度 (人)				令和2年度 (人)		
	利用者数 (人)	前年度比	提供座席数 (席)	利用率	利用者数 (人)	提供座席数 (席)	利用率
大連 (R1.8.17 就航 R2.2.8 運休)	—	—	—	—	—	—	—
釜山 (R2.3.8 運休)	—	—	—	—	—	—	—
ソウル (仁川) (R2.3.8 運休)	—	—	—	—	—	—	—
務安 (R1.5.13 運休)	—	—	—	—	—	—	—
襄陽 (R2.1.1 運休)	—	—	—	—	—	—	—
台北 (R2.3.11 運休)	—	—	—	—	—	—	—
大邱 (R1.6.5 就航 R1.9.1 運休)	—	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—	—

(3) チャーター便・臨時便

チャーター便は、フジドリームエアラインズによる直行及び周遊チャーターが8回（15便）実施された臨時便は、東京便減便の中、予約が多く入った時にスターフライヤーが2便運航したものの。

	令和3年度				令和2年度	
	利用者数 (人)	前年度比	就航便数 (便)	前年度比	利用者数 (人)	就航便数 (便)
国内	788	29.0%	17	38.6%	2,720	44
国際	—	—	—	—	—	—
合計	788	29.0%	17	38.6%	2,720	44

【今後の取組み】

・令和4年3月21日にまん延防止等重点措置が解除されたが、感染状況の高止まりが続いている一方で、航空各社のゴールデンウィークの利用状況は昨年度に比べて大幅に増加するなど、明るい兆しが出ている。

・感染状況が落ち着けば旅行需要の回復が期待できることから、引き続き、航空会社や旅行会社と連携しながら、特に首都圏を中心とした旅客の取込み、利用促進に努める。

・既存の定期国際線である韓国・仁川、釜山線や中国・大連線、台湾・台北線の就航再開を目指す。

2 エアポートバス利用者数

令和3年度の利用者数の合計は、前年度比122.1%の251,891人となった。

	令和3年度 (人)		令和2年度 (人)
		前年度比	
利用者数合計	251,891	122.1%	206,245

	令和3年度 (人)		令和元年度 (人)
		令和元年度比	
利用者数合計	251,891	40.0%	630,136

	令和3年度 (人)		令和2年度 (人)
		前年度比	
小倉線	116,515	138.5%	84,115
朽網線	112,686	107.1%	105,246
黒崎・折尾・学研都市線	22,690	134.4%	16,884

【今後の取組み】

・空港利用者数の増加に伴いエアポートバスの利用者数も増加したものの、コロナ前（令和元年度）と比べた場合は依然として低調である。

・引き続き航空旅客便に対応した運行ダイヤを設定するなど、利便性確保に努めるとともに、利用者増に向けた取り組みを行う。

3 貨物取扱量

令和3年度の実績は21,819トンで、前年度比141.8%と大幅に増加し、過去最高を記録した。

	令和3年度 (t)		令和2年度 (t)
		前年度比	
貨物取扱量合計	21,819	141.8%	15,385

※令和2年12月に、週2便から週3便に増便、令和3年11月に週3便から週4便に増便されたことで、輸送サービスが強化され、荷主企業の利便性が向上
※令和3年11月にシーアンドエア輸送による人工衛星の輸入を実施

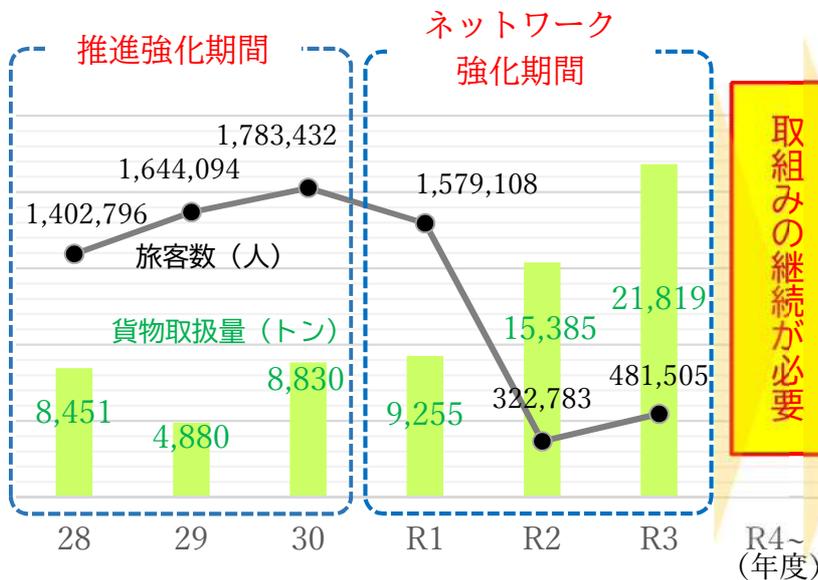
	令和3年度 (t)		令和2年度 (t)
		前年度比	
国内	2,214	131.4%	1,685
国際	19,605	143.1%	13,700

【今後の取組み】

・今後も国際貨物をしっかりと取り込むとともに、定期便の定着・増便や新路線の誘致、新たな国際貨物上屋の整備などに取り組み、貨物拠点化の推進に努める。

県市が連携した北九州空港の取組みの継続について

〈旅客・貨物取扱量の推移〉



取組みの継続

〈旅客：ネットワーク再構築推進期間〉
令和4年度からの3か年をコロナ禍からのV字回復を図る「強化期間」として位置付け、復便を促進する支援を行うなど、県市協働で旅客路線誘致や路線定着に取組む。

〈貨物：貨物拠点化推進強化期間〉
令和3年度からの3か年を貨物取扱「強化期間」として位置付け、貨物定期路線の定着と拡充を進めるため、更なる集貨促進、通関体制の構築、上屋機能の強化など、ソフト・ハード両面に取組む。

取組みの継続が必要

【これまでの取組】

- ・平成28年度～平成30年度 「北九州空港将来ビジョン推進強化期間」
- ・令和元年度～令和3年度 「北九州空港のネットワーク充実強化期間」

【旅客便の現状】

旅客便については、令和元年度末からの新型コロナウイルスの世界的な感染により、国際及び国内の航空路線は大きなダメージを受けている。

現状においても国際線の路線再開の見通しが立たず、国内の主要路線である羽田線においても減便が続いている状況。

【貨物便の現状】

貨物については、大型貨物定期便が就航し、世界的ハブ空港と接続することで輸出入貨物が増大するなど、貨物拠点化が大きく進展している。

現状では、新たな貨物上屋の整備や通関体制の確立など、さらなる物流拠点化に向けて取り組んでいる状況。

【取組みの継続】

「北九州空港のネットワーク充実強化期間」は令和3年度に終了。

貨物拠点化推進と併せて、アフターコロナを見据えた路線誘致や路線定着を目指すため、強化期間継続の必要がある。

→ **県と緊密な連携のもと強力に推進**

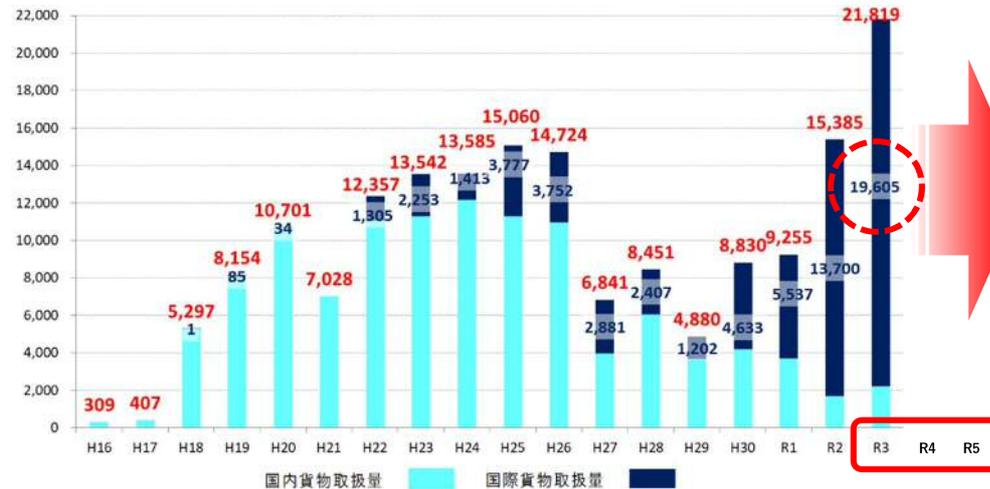
旅客：「北九州空港ネットワーク再構築推進期間」(R4～)

貨物：「貨物拠点化推進強化期間」(R3～)

令和4年度「貨物拠点化推進強化期間」の取組みについて（貨物）

航空貨物取扱量の推移（国際・国内合計）

（単位：ト）



令和3年度
国際貨物取扱量
4年連続過去最高
19,605t
を記録！

R3年度からの3か年を
「貨物拠点化推進強化期間」
として位置づけ、
県市が連携した取組みを継続

【貨物事業の進展】

県市が連携し、路線誘致、集貨、創貨、機能強化の取組みを進めてきた結果、貨物拠点化が大きく進展

- ・ 国際貨物定期便（北九州⇄仁川）の就航（世界120都市のネットワーク、週4便化）
- ・ 令和3年度国際貨物取扱量が19,605tと4年連続過去最高を更新
- ・ 輸入貨物取扱い開始、門司税関北九州出張所の新設
- ・ 第2国際貨物上屋の増設整備着手

【令和4年度貨物事業の取組み】

■ 継続した取組み

- ・ 運航路線の安定化、新規路線誘致
- ・ 貨物需要取り込みのための集貨促進
- ・ 直接搬入ルート構築（通関体制構築）
- ・ 上屋機能強化（第2国際貨物上屋の整備）

■ 新たな取組み

- ・ 半導体関連製品の戦略的取り込み
- ・ 貨物取扱いに係る物流事業者等の進出促進

北九州空港の貨物拠点化を推進

- ・ 国際貨物便の維持・拡大
- ・ 企業の立地環境向上
- ・ 本市経済の国際競争力強化



令和4年度「北九州空港のアクセス」の取組みについて

1 エアポートバス

北九州空港のアクセス利便性確保のため、空港と市内を結ぶエアポートバスを運行している。

【運行概要】

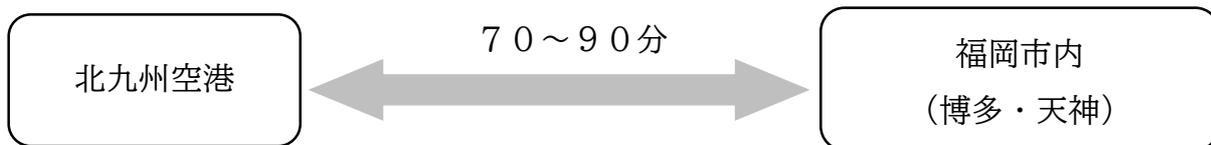
- (1) 運行事業者
西鉄バス北九州株式会社
- (2) 運行路線・運行便数
 - ・小倉線 29往復/日
 - ・朽網線 30往復/日
 - ・黒崎・折尾・学研都市線 12往復/日

2 福北リムジン

福岡県は平成26年11月に策定した将来構想に基づき、北九州空港と福岡市内（博多・天神）を結ぶリムジンバスの運行を平成27年7月より行っている。

【運行概要】

- (1) 運行事業者
西日本鉄道株式会社
- (2) 運行ルート



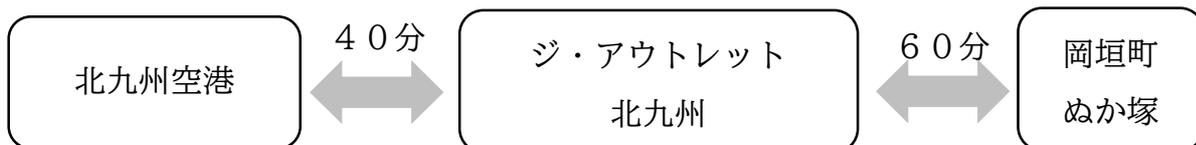
- (3) 運行開始 平成27年7月17日
- (4) 運行便数・運賃
 - 北九州空港行き 1便/日（早朝）
 - 福岡方面行き 3便/日（深夜）
 - 北九州空港～福岡市（博多・天神） 2,000円

3 ジ・アウトレット、岡垣方面の連絡バス

ジ・アウトレット北九州の開業に合わせて、北九州空港から直通の連絡バスを運行している。

【運行概要】

- (1) 運行事業者
福岡観光バス株式会社（嘉穂郡桂川町）
- (2) 運行ルート



- (3) 運行開始 令和4年4月26日
- (4) 運行便数・運賃
 - 北九州空港行き 5便/日
 - アウトレット行き 6便/日
 - 北九州空港～ジ・アウトレット北九州 1,000円

4 定額タクシー

北九州空港と市の西部方面を結ぶ定額タクシーを運行している。

【運行概要】

(1) 運行開始 令和3年3月28日

(2) 運行範囲・運賃

北九州空港⇄若松区（東部）	8,200円（税込み）/台
北九州空港⇄若松区（西部）	9,800円（税込み）/台
北九州空港⇄八幡東区	6,300円（税込み）/台
北九州空港⇄八幡西区	8,600円（税込み）/台
北九州空港⇄戸畑区	7,400円（税込み）/台

5 株式会社 NearMe による乗合タクシーサービスについて

タクシー乗合アプリなどを展開する株式会社 NearMe が、第一交通産業グループと協力し、独自のAIを活用して相乗りなどのルーティングを最適化することで、市内の指定箇所などと北九州空港をドアツードアで結ぶ空港送迎サービスを開始した。

【運行概要】

(1) 運行開始 令和4年4月1日

(2) 運行範囲・運賃

北九州空港⇄小倉南区、苅田町	1回	2,480円（税込み）/人～
北九州空港⇄小倉北区	1回	3,980円（税込み）/人～
北九州空港⇄門司区	1回	4,980円（税込み）/人～

令和4年度「機能強化」の取組みについて

【北九州空港滑走路延長計画の進捗】

九州・西中国の物流拠点空港を目指す北九州空港において、大型貨物機の長距離運航を可能とする滑走路延長に向けた手続きが令和2年度から国により進められている。

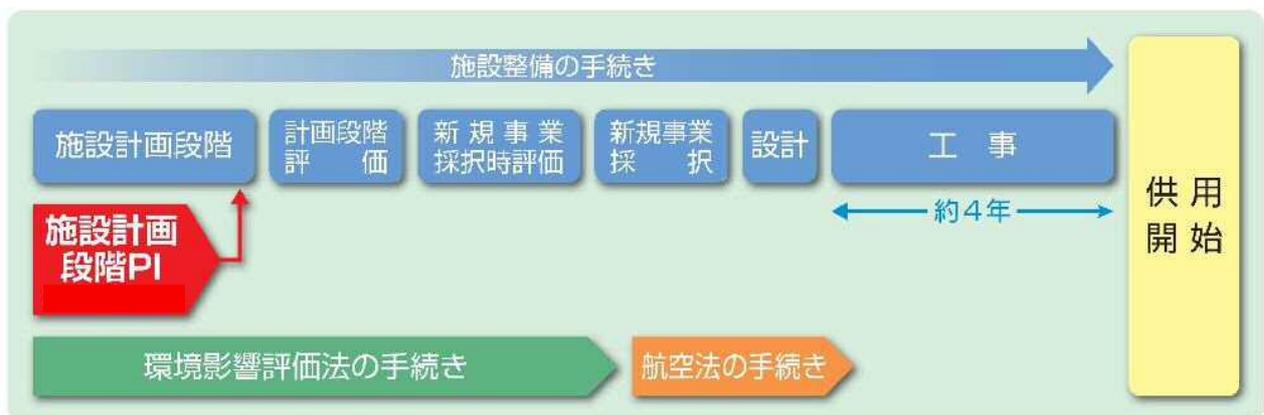
1. 滑走路の延長 (2,500m→3,000m)

令和3年度は、事業計画について住民の皆様との情報共有や合意形成を図るパブリック・インボルブメントを行い、11月に活動結果等が公表され手続きを終えた。

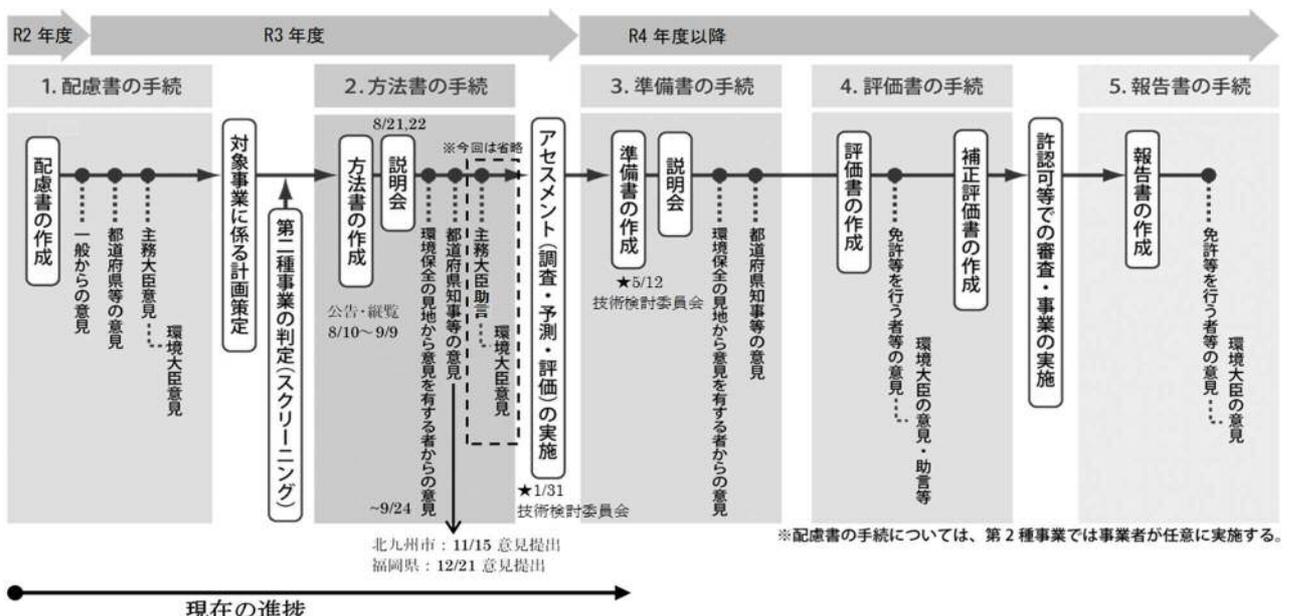
更に環境影響評価法の手続きについては、2段階目の方法書手続きを完了した。

令和4年度は、引き続き環境影響評価法の手続きを進めるとともに、新規事業採択に向けて、国に必要な協力を行っていく。

事業化までの手続き



環境影響評価法の手続き



令和 4 年度 旅客の V 字回復に向けた取組みについて

北九州空港の運航状況

路線	航空会社	計画便数	5 月の運航状況
東京（羽田）線	日本航空	4 往復/日	4 往復/日
	スターフライヤー	11 往復/日	6～10 往復/日
沖縄（那覇）線	スターフライヤー	4/22、4/24 のみ運航	

※国際線は全便運休

国内線

<取組方針>

- ・当面、現在就航中の東京（羽田）線の集客を強化するとともに、復便に向けた働きかけを行い、その他の路線再開、新規路線の開設を目指す。
- ・企業等のオンライン環境の整備により、業務渡航はコロナ前水準には戻らないと見込まれる中、その減少分を補うため、航空会社、旅行会社と連携してレジャー需要を取り込んでいく必要がある。

<主な取組>

1 首都圏からの旅行需要の取込み

- ・産業経済局と連携し、本市の観光資源（夜景、アウトレット、産業観光など）等を活用した旅行商品、MICE 等の誘致を図る。
- ・大分県、山口県と連携し、北九州空港を起点とした周遊型旅行の PR を行う。
- ・首都圏の旅行社向けのファミツアーを実施し、旅行商品の造成を働きかける。
- ・航空会社と連携したクーポンキャンペーン等を展開する。

2 首都圏を中心とした北九州空港の認知度向上

- ・スターフライヤーが参画したアニメ「TIGER & BUNNY 2」を活用した「北九州空港」の露出展開を図る。
- ・北九州空港を活用した旅行について、SNS などにより航空会社と連携した PR を行う。

3 北九州空港圏域における PR

- ・航空会社と連携し、クーポンキャンペーン等を展開する。
- ・圏域自治体、企業等に対して、北九州空港の利用を積極的に働きかける。
- ・SNS（LINE、フェイスブック、インスタグラム）の活用による情報発信を行う。
- ・北九州空港利用実態調査の結果を踏まえた、北九州空港の利用促進施策の検討、実施。

4 その他

- ・チャーター便の誘致、旅行会社と連携した利用促進。
- ・関係機関、民間団体等と連携したターミナルビルのにぎわい創出。

国際線

<取組方針>

- ・航空会社に対しては、メールや電話、テレビ会議の他、国内の拠点を直接訪問し、渡航制限の解除を見据えながら就航再開や新規就航に向けた働きかけを行う。
- ・就航再開を見据え、既存路線の就航先（韓国・中国・台湾）において、北九州空港の知名度向上を図っていく。

<主な取組>

1 北九州空港を起点とする広域観光ルートのPR

- ・北九州空港圏域の自治体である福岡県、大分県、山口県の観光部署と連携しながら、インバウンド向けに北九州空港を起点とする新たな観光ルートの提案やPRを行う。
- ・就航再開を決定した路線については、旅行商品の造成を促すため、海外の旅行社を招聘し、新たな観光ルートを周遊するファミツアーを実施する。

2 SNS等を活用した情報発信

- ・既存路線が就航していた韓国・中国・台湾を対象に、SNS等を活用した北九州空港の知名度向上を図るための情報発信を行う。

3 就航再開に向けた路線集客

- ・就航再開が決定した路線については、旅行会社に対し旅行商品造成の促進や商品の販売意欲の向上を図るため、販売実績に応じたインセンティブの提供や広告に対する助成などを実施し、再開後の旅客数の拡大を目指す。

令和4年度 旅客のV字回復に向けた取組みについて

「北九州空港ネットワーク再構築推進期間」(旅客)

旅客数のV字回復に向け、既存路線の就航再開・復便や新規路線の就航による旅客便のネットワーク再構築を図るため、令和4年度からの「北九州空港ネットワーク再構築推進期間」において、就航する航空会社に対する運航支援の取組みを強化することとし、福岡県とともに以下の取組みを実施することとしている。

1. 新規路線の就航促進に向けた支援強化

<国際線の運航助成金の単価改定>

新たな強化期間の設定に合わせ、国際線の運航助成金の基本単価を増額し、加えて深夜早朝の時間帯に就航する際には追加加算を行うなど、24時間運用可能である特徴を生かした新規路線の誘致を促進していく。

2. 既存路線の就航再開への支援強化

(対象路線：仁川線、釜山線、台北線、大連線、那覇線)

<これまでの運航助成金支給実績のリセット>

他の地方空港に後れを取ることなく既存路線の就航再開を図っていくため、原則として就航後3年間に限り支給する運航助成金について、就航再開時には、これまで就航していた期間をリセットし、新たに1年目として助成することにより、早期の就航再開に向けたインセンティブとする。